

第2 教育研究団体の意見・評価

○ 全国英語教育研究団体連合会

(代表者 博田 英明 会員数 約60,000人)

T E L 03-3267-8583

1 前 文

1990年から2020年まで実施された「大学入試センター試験」が廃止され、2021年より「大学入学共通テスト」が新たに開始され、今年で2年目となる。従来のセンター試験からの変更点は、配点が50点から100点へと倍増したこと、「多様な話者による現代の標準的な英語を使用する」という観点から「イギリス英語」も使用されていること、さらに「1回読み」問題が導入されたこと等があったが、受験者にとっては少しずつ新しい形式への慣れが出てきているとも思われる。今年度も、「知識の理解の質を問う問題や、思考力・判断力・表現力等を発揮して解くことが求められる問題を重視する」という共通テストの問題作成方針が色濃く反映されたものとなった。後に詳述するが、形式・内容ともに前年度をほぼ踏襲しており、難易度もやや易化したと思われる。丁寧に準備した受験者にとっては、十分な対応ができたと考えられる。

令和4年度から開始される新しい高等学校学習指導要領（英語）では、『統合的な言語活動を通して「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと [やり取り]」、「話すこと [発表]」、「書くこと」の五つの領域を総合的に扱うことを一層重視する科目』と、『話すことと書くことによる発信能力の育成を強化する科目』がそれぞれ新設された。外国語でコミュニケーションを図る資質・能力を育成するための言語活動を充実させることを目標としており、共通テストではその点が反映されることがさらに今後の課題となる。

2022年度の大学入学共通テスト利用大学・専門職大学・短期大学は、864大学となり、内訳は、国立大学が82校、公立大学が93校、私立大学が533校、公立短期大学が12校、私立短期大学が137校、公立専門職大学が2校、私立専門職大学が5校となっている。今後も利用が進んでいくことが予想される。

リスニング受験者数は本試験と追・再試験を合わせ480,053人で、前年度の476,167人からは若干増加している。教科選択率を見ても、英語の成績が文系理系を問わずすべての受験者の大学合否に大きく関与している。

本試験の平均点は、一昨年度が28.78点（100点換算で57.56点）、昨年度は56.16点、今年度の平均点は59.45点であり、前年度よりも+3.29となり、やや上昇した。平均点と難易度は直結するものではないが、難易度についてはやや易化したといえる。

読み上げられた英語の総語数は約1,532語（昨年度は約1,520語）でほぼ変わらず、設問と選択肢の総語数は約562語（昨年約571語）で、こちらも前年度並みとなった。

2 試験問題の程度・設問数・配点・形式等

試験問題の構成は大きく次のようなものであった。

大問	配点	マーク数	出題内容	読み上げ回数
1	25	4	A：短文内容一致問題	2
		3	B：短文イラスト問題	
2	16	4	対話文イラスト問題	2
3	18	6	対話文選択問題	1
4	12	8	A：モノローグ図表完成問題	1
		1	B：複数のモノローグ選択問題	
5	15	7	講義内容選択問題	1
6	14	2	A：2者対話文選択問題	1
		2	B：4者対話文選択問題	
合計	100	37		

出題形式は昨年と同じで、大問6題からなる構成で、配点にも変化はない。読み上げ回数は第1問・第2問が2回読み、第3問～第6問は1回読みであり、これも昨年から変化はない。イラストやグラフ、表が数多く使用されており、単に英語を聞き取るだけでなく、目的に応じた思考力・判断力が問われる内容になっている。また、アメリカ人話者だけでなくイギリス人話者や、日本人と思われる非ネイティブ話者が含まれていた。

第1問 短い発話を聴いて、内容に関する選択肢を選ぶ問である。Aは短い発話を聴き取り、設問の問いに最も適する選択肢を選ぶ問題。状況を要約したり、発話のやり取りから導くことのできることを判断したりする力が求められた。Bでは短い発話を聴いて、設問で求められる内容に合致する絵を選ぶ問題であり、内容を正確に把握する力が問われた。難易度としては標準レベルであり、設定も日常的なものであり、短い発話から状況や情景を把握させ、絵という視覚情報を選択させるという設問形式は好ましいものである。ただし、短い発話であるため、やや唐突に始まる印象がある。最初の問題はできるだけイメージしやすい設定の問題から始めて、徐々に英語に耳を慣らせていくような流れが望ましい。

問1 話者の「バスにそれほど人が多く乗っていなかったので席に座った」という発話を、The speakerを主語として客観的に説明する文章を選ぶ問題。

問2 「携帯電話を忘れたから待っていて」という話者の発話から、男性の行動を類推させる問題。思考や判断を伴うもので好ましい問題である。

問3 話者が「ロンドンの地図を失くしてはいなかった。スーツケースの中にあったよ。」という発言の内容を聞き取る問題。内容も選択肢の英文も平易だが、ややイメージしにくい場面設定であったかもしれない。

問4 問題文のtoo busyの意味を聞き取って答える問題。選択肢にはhardly everという表現もあり、語の知識も必要となる問題。

問5 「ピザが誰にどれだけ食べられたか」、についての説明から、適切なイラストを選ぶ問題。読まれる最終文がSo, nothing's left.であったため、この文の聴解だけで正解を導ける問題。

問6 読まれる英文から鳥の位置を選ぶ問題。第1文のbird on the lakeを正確に聞き取らず、under the treeだけで判断してしまうと誤答になる問題。

問7 「ベルトが長く丈の長いコート」を話者が好んでいることを聞き取って、その内容に合致する絵を選ぶ問題。

第2問 短い対話を聴き、設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で示されている場面の情報を把握し、聴いた内容から適切なイラストを選ぶという複合的な作業を求めている。これまでもあった形式ではあるが、設問に示されている日本語の情報把握が重要であるため、受験者はこの形式に慣れておく必要がある。短い時間の中で、複合的な作業を素早く行うことを要求しているため、与えられる状況は日常生活に根差している事柄や、現代的なテーマを用いることによって、受験者にイメージしやすいものが設問とされることが望ましい。難易度としては標準レベルであるが、イラストの設定については、思考に不必要な負担をかけることのないように、今後も工夫されることを期待する。

問8 タオルをどのバスケットに入れるかを把握して適合するイラストを選択させる問題。場所や位置を示す表現の知識と聞き取りが必要になる。

問9 話者の料理のオーダーを把握する問題。店での注文のやりとりの表現等が含まれている実生活に根差した場面であり、テーマは適切である。

問10 前問と同様に実生活に根差したテーマであり好ましい。ピクトグラムの意味をやり取りするというのは新鮮で興味深い。

問11 「映画館でどこに座るか」についての2人の話者のやり取りである。昨年も同じような傾向の問題があり、ピクトグラムの把握が一つの鍵になる。昨年は「ロッカー」のピクトグラムが受験者にとってはあまり馴染みがないと思われる、ということ指摘したが、今年は改善している。ただし、「スロープのある出口」のピクトグラムも、すぐにイメージできたか、という考察は必要である。複合的な作業を求めている以上、聴解とは離れたところでの思考が負担になることは望ましくない。その点は今後も御配慮いただきたい。

第3問 短い対話を聴き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。第2問と同様に、日本語で示されている場面の情報を把握し、概要や要点を目的に応じて把握する力が問われている。またこの問では、出題方針で予告されていた「イギリス英語」が使用されている。短い対話を聴き、設問に合致するイラストを選ぶ問題。日本語で示されている場面の情報を把握し、聴いた内容から適切なイラストを選ぶという複合的な作業を求めている。「多様な話者による現代の標準的な英語」を使用するという点で、新傾向は好ましいものであると考える。

問12 雨が降りそうな状況で、話者がどう対応するかをやり取りしている対話。

問13 病院の予約について、やり取りしている対話。最終的に問われているのは患者にとって都合の良い日付である。

問14 アメリカ英語とは異なるアクセントの英語が使用されている問題。昨年は「イギリスにいる弟が、東京に住んでいる姉と電話で話をしている」という場面設定が与えられていたが、今年はその種の導入はなかった。聞き取る英語の種類が変わることで、受験者には一定の焦りが感じられるかもしれないが、3回目となる来年以降は無理に設定を導入する必要はないかと思われる。それよりも自然な場面設定に注力すべきであると考えます。

問15 観光案内所で、博物館の展示内容についてやり取りしている問題。正解を導くために必ずしも必要はないが、選択肢にあるon loanという表現については、あまり馴染みのなかった受験者も少なくなかったと思われる。

問16 問14同様に、アメリカ英語とは異なるアクセントの英語が使用されている問題。ログインする際のパスワードの入力という現代的な場面設定は好ましい。

問17 「コンサートの値段が内容に見合うか」という話題はとても興味深い。ただし、worthの

意味および用法が理解できていないと、正確な聞き取りは難しい。

第4問 Aは読まれる説明を聴き、図表を見ながら空所を埋めていく問題。今年は昨年のグラフの問題ではなく、4つのイラストを時系列に並べる問題が出題されており、数の聞き取りは出題されなかった。Bでは、4人の話者の説明を聴き、設問に合致する選択肢を選ぶ問題。複数の情報を聴き、情報を比較しながら思考する力が問われている。聞き取った内容と資料を結び付けて考えさせる問題は、日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましいと考えているが、解答にはある程度の時間がかかることも確認されたい。問題文と図表を読む時間は与えられているが、聴いた内容から設問に取り組む時間はやや短い。聴いているうちにどの人の発言だか分からなくなった、せっかく聴きとれても、正解にたどり着けなかったという受験者の声も聞こえてきている。上にも述べたとおり、聴解力とは異なる点で受験者に負荷をかけすぎる出題は再考頂きたい。また、出題の方向性は好ましいものであるので、解答時間についてさらに検討をお願いしたい。

問18～21 「クリスマスに起こる出来事」についての話者の話を、示されたイラストで時系列を答える問題。

問22～25 「寄付されたもの」をアイテムに応じて箱に分別することを指示している内容を聞き取る問題。昨年の「DVDショップで、DVDの値下げについての説明を聞いている場面」でのやり取りに比べると、より実生活に関連する問題であり、問題としても取り組みやすいものであった。

問26 読書会で読む本について、4人のメンバーが推薦する本について話す内容を聞き取り、条件に合う答える問題。アメリカ英語とは異なるアクセントの英語が使用されている。3番目の話者は日本人の英語にも感じ取れる。さまざまな意見や考えが示される場面で、多様な英語が使用されているのはとても自然で好ましいと思われる。

第5問 「ギグワークモデルに関する講義」を1回聞き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。ワークシートとして示されているものを活用して、ノートテキングをすることが必要になる。聞き取った内容とグラフから読み取れる情報を組み合わせて要点を把握する複合的な作業を必要とする。情報を素早く正確に把握・整理する必要があり、高い集中力が求められ、難易度としては高い。日々の授業運営にも影響を与えるものとして望ましい出題であるが、前問と同様に、問題文と図表を読む時間は与えられているが、聴いた内容から設問に取り組む時間はやや短い。第4問同様、せっかく聴きとれても、正解にたどり着けなかったという受験者の声も聞こえてきており、その点は再考をお願いしたい。

問27～32 ワークシートに入るべき事項を選択肢から選ぶ問題と講義の内容を選択させる問題。1回読みであるため、情報の処理時間および解答行動に時間を要し、次の設問への十分な準備が難しかったと思われる。

問33 図から読み取れる情報と講義全体の内容から言えることを選択する問題。前述のように設問に十分対応する時間があつたかどうかについて再考をお願いしたい。

第6問 Aは「料理について」の2人の会話を聴き、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。話者の発話の要点を把握する力が問われている。Bは「エコツーリズム」に関する4者の会話を聞き取り、設問に合致する最も適切な選択肢を選ぶ問題。それぞれの話者の賛否の立場を正確に把握し、意見に合う図表を判断する力が問われた。昨年は4者の会話において、「誰が話しているか」を把握することが難しかったが、今年は話者の声や英語が特徴的であったため、昨年よりも改善されていた。ただし、問37の図表のグラフタイトルが長く、時間がかかった受験者が多かったと思われる。前問と同様に、せっかく聴きとれても、正解にたどり着けなかった

という受験者の声もあり、時間的な余裕については再考をお願いしたい。

問34～35 日本語で書かれた状況を踏まえて、話者の主張の要点と合致する選択肢を選ぶ問題。

問36 4人の話者のうち、何人が賛成したかを問う問題。

問37 会話の内容を踏まえて、ある話者の意見を反映している表を選択する問題。

3 ま と め

「大学入学共通テスト問題作成方針」に示されているように、「高等学校教育の指導のねらいとする力や大学教育の入口段階で共通に求められる力を踏まえたものとなるよう、出題教科・科目において問いたい思考力・判断力・表現力等を明確にした上で問題を作成する」という方向性は今回の共通テストにおいて明らかに反映されている。こういった傾向は望ましいものであり、教育現場での授業改善にも確実に繋がっていくものであると評価したい。ただし、思考力を問うことが目的でありながら、結果的に情報を処理する能力や、さらにそれを速く行うことを求めるような問題設定となってしまうことは避けるべきである。今年度の問題では、昨年度の課題が改善された箇所が多くあったと思われる。一方で、設問間の時間が十分に取れないことによって思考する時間を確保するのが難しい設問もあったように思われる。1回聴き取った内容について複数の資料を読み解く点で受験者への負荷は高まっている。より基本的な聴解力が身につけているのかを評価するような問題作成もお願いしたい。「知識・技能」を十分有しているかの評価も行いつつ、思考力・判断力・表現力等を中心に評価する試験問題の作成にあたっては大変な御苦勞があるものと推察するが、これまでのセンター試験における問題評価・改善の蓄積を生かしながら、受験者の学びの動機をさらに高める性質の作問をお願いしたい。グローバル人材の育成を目指した英語教育改革の方向性の中で高等学校学習指導要領に示す5領域のバランスの良い育成が求められている背景を踏まえ、受験者が身につけるべき資質・能力を育成できるように、主体的な学びを促進する試験が安定的に作成されることを希望する。